

ニジェール共和国
～ドッソ第2中学校における体育授業～

佐藤 忍

(17-1, ニジェール共和国, 体育, 阿賀町立上川中学校)

新潟県阿賀町立上川中学校から参りました、佐藤忍と申します。笹館所長を前に非常に緊張しております。よろしくお願いいたします。

私は2005年7月から、2007年3月まで、西アフリカにあるニジェールという国に行ってきました。今日はニジェールでやってきたドッソ第二中学校の体育隊員として活動してきたことを紹介したいと思います。まずはニジェール共和国における任国事情をちょっと説明したいと思います。すみません、地図の入れ方がよくわからなかったのも文字だけで失礼します。面積は日本の約3倍、それから地理上でいくと西アフリカで2番目に大きい国と言われています。人口1160万人というふうになっているのですが、実際にはもっとたくさんの人口がいると思います。なぜならこれらを調べる行政は全く機能していないのではないかと思います。それから、この数字をどうやって調べたかも非常に疑問が残る人数です。それから、人種ですが、ハウサ、ザルマガ、多くいます。写真のらくだに乗っているのはコワレル族、それから下の、顔がオレンジ色に塗られているのはボロロ族のボロロ祭といいまして、歯が白い、目の白さで美男子コンテストが行われています。毎年行われていて、日本からもツアーを組んでこのボロロ祭を見に行くなんていうのもあるようです。それから、右下にあるのは、ニジェール人たちが、一般人というか、お金持ちでない人が住んでいる藁の家です。気候は北から砂漠気候、サヘル気候、サバンナ気候、3月～6月が一番暑い時期になります。グランドの灼熱の太陽の光は非常に厳しかったです。子どもたちは靴を持っていないので、裸足で体育の授業をやるわけですが、「マダムばかり靴を履いてずるいよ！」なんていわれて、私も裸足になってみたのですが、火傷しそうなので勘弁してくれと靴を履かせていただきました。それからハーマタンという風が吹く12月から2月なんですけど、現地語でクッサといいまして、非常に霧がかかったように、もやがかかったように、砂埃がひどいですね。そうすると耳の穴、鼻の穴が真っ黒くなって、部屋はびっちり閉めているんですけども、部屋が砂だらけになってしまいます。それから、一人当たり GNP ということで、この数字は私たち日本人の1ヶ月分の半分、これがニジェール人の1年だといわれています。一日1ドル未満で暮らす人の比率が61%といわれています。それから成人識字率、これは世界最低だといわれています。右の写真は、青少年活動の方の写真なんですけれども、識字率を上げる活動も行っていますが、イスラム教のアラブ語を習っている現地人には、見も知らぬ外国人がフランス語や文字を教えることが理解されることは難しいといっ

ていました。余談ですが、ある隊員がお父さんやお母さんの絵を描いてごらん、と紙とクレヨンを渡して書かせたところ、大人がとんできて、やめろと。なぜやめろと言ったのかというと、イスラム教は偶像崇拝をしてはいけないからだ、という話を聞いて、活動する前に私たちがやらなければいけないことは、任国の文化・宗教、習慣をしっかりと理解することだと重く受け止めました。それから人間開発指数ですが、162カ国中161位ということで、国連開発指数、一つ目が成人識字率、二つ目が5歳未満児死亡率、三つ目が国民一人当たり国内総生産、というので開発指数が出ているわけですが、近年シエラレオネが戦争か内乱か何かをやめたおかげでニジェールが最下位になったという話を聞きました。5歳未満児死亡率、1000人あたり265人と、この右の写真は私が雇っていた警備員の夫婦に子どもが生まれた写真です。この子は私がうちを出てくるときには元気にすくすく育っていましたが、簡単に子どもたちが死んでしまうのも目の当たりにしてきました。出生時の平均余命が46歳、初等教育純就学30%、それから為替レートですが、日本円の約5分の1だというふうにして、私たちはいつも計算していました。産業経済状況はご覧の通りです。農牧業と工業、しかしながら現在ではウラン市場の低迷ながら、全くというほど、ニジェール国の資源になるものはない。他国からの援助でまかなっている状態。ニジェールにおける主要ドナーは世界銀行、EU、UNICEF、などなどです。援助額ではフランスが飛びぬけて多くて、次にEU、世界銀行、その後ドイツ、日本であると聞いています。

活動の紹介、学校について、体育授業について、バレーボールについて説明していきたいと思います。学校についてですが、ニジェールの中学校は中学校1年生、2年生、3年生、4年生まであります。1年生には約600人前後が入学してきますが、徐々に退学、それから家の都合、等々で卒業学年になるころには100人いないのではないかと思います。それから職員数ですが、トッソ第二中学校では、男性職員が20人女性職員は私を含めて4名という状態でありました。指導教科は日本とほぼ変わりません。学校の方は、8時半から始まります。8時25分になるとその右上の写真にある鐘を叩くんです。そうすると国旗掲揚が始まって1時間目、8時半から始まります。2時間目、そして2時間目と3時間目の休憩のときに子どもたち・職員は、その右の下二つにあるようなちよっとしたおやつを買って空腹を紛らわします。4限が終わると休憩、そして一度生徒・教師は家に帰ります。そして5限、6限となります。下の、5限、6限のカッコの16時～17時、17時～18時というのは、4、5、6と非常に暑くなります。日陰のないグランドでは、気温計では測れないほどの暑さになります。少しでも太陽が傾いてから授業を行うように、4時から30分遅れになっています。日本とニジェールの比較ですが、教育制度、日本では義務教育に対して、義務化されていない。進級試験、進級前に行います。小学校においても実施しているので、留年して、やっと入学してくる者もいます。それから教員ですが、ニジェールでは高校を卒業した人も教員をやっていました。それから生徒は、学年が上が

るにつれて、裕福な家庭、それから優秀な生徒のみが学校に通うようになります。優秀な生徒というのは、自分のうちが貧困であっても、明かりを求めてノートを持って行って電気の下で勉強する、ランプの下で勉強をする。そうやって一生懸命、とにかく上にいきたいんだという、貧困でありながらも優秀な生徒は中学校4年生まで上がることができます。生徒の年齢ですが、ニジェールでは、自分の誕生日を知らない人がほとんどです。出生のカード、身分証明書みたいなものもあるんですが、大体何年、みたいなことが書いてあって、「実際おまえ本当は何歳なんだ！」というような中学生がたくさんいます。生徒指導に関してですが、体罰、ひどいです。すぐ殴ります。中学校の女の先生は鉛筆がほとんど落ちると、自分では拾いません。あなた拾いなさい、と行って拾わせるんですよ。すごいです。びっくりしました。それから、施設設備に関しては、校舎・建物のみ、机・椅子、電気・水道なし。水道、でもうちの学校は恵まれていて、1本だけありました。それから教材に関しては、ニジェールでは全くありません。あ、私の学校ではありませんでした。これがドゥソ第二中学校の校舎・建物です。赤土とコンクリートを混ぜて建てたもの。屋根もあって、立派な方だと思います。教室の様子です。ご覧ください。机・椅子ありますが、机の板がなかったり、早い者勝ちで座ったり、それからごみを自分で持ってきて授業を受けている状態です。それから窓はついているんですが、ガラスがなくて、窓をあけると熱風とか砂が入ってくるためにあまりあけられません。なので薄暗い中で授業を受けています。ニジェールの黒板です。黒板、非常に乾燥していますので黒板を消すときはスポンジに水を含ませたもので拭いています。体育の授業についてですが、もう一人の体育教師と一緒にこのような単元計画を立てて授業をしていました。10月の体作り運動と、日本の授業と同じようなことをしていました。集団行動も含めて行っていました。ただ、私の行っていた2年間は、ラマダン、断食の時期と重なって、ほとんどの生徒が体育の授業はやらない。なので、ほとんどの生徒、出席してきませんでした。それから11月になるとやっと生徒が学校に着始めます。2月、マット運動ですが、一番寒い時期なんです、マット運動と言っても、マットはないので、砂の上で行います。当然私も砂の上で前転、後転、いろいろしてきたんですが、子どもたちは賢くてですね、その辺に落ちてるビニール袋を頭にかぶせてですね、砂の上を前転したりするんですね。非常に、黒人たちの髪の毛というのが砂がつきやすいというか、くるくる渦を巻いているので、非常に砂だらけになるんですよ。子どもたちはまさに生きる力だと思います。それから5月、暑いときです。気温45度を普通に超えています。裸足で、石も転がっているグラウンドです、牛もよく横断していくんですけども、牛の糞を踏みながらサッカー頑張っていました。それからリュット、ニジェール相撲です。この頃になると、バカンス前で生徒ほとんど来なくなります。これは、集団行動の様子です。映像が非常に悪いんですけども、私は日本式の体育に非常にこだわりました。本当は身長順に並んで体格の同じような子と前後でペアになって活動とかしたかったので、4列横隊、1列横隊から2列横隊等の訓練を一生懸命やりま

した。なかなかできませんでした。サッカーの様子、それから高飛び。高飛び、非常に危険です。怪我だけは絶対にさせられないなど。なぜかという、前の、前任者とか、骨折とかすると、医療機関が発達していないので、骨折してもギプスとかがないので変な風に骨がくっついちゃうから、骨折とかはさせないようにねなんていって、見えませんが非常にふかふかにした砂の上で着地しています。中学校2年生で135センチとびました。女子で115センチの記録でした。それからこれは、ニジュール相撲の様子です。映像悪くてすみません。日本とあまり変わらないような相撲ですね、いわゆる相撲です。それから、これが授業の様子です。来てる人数は20人くらいなんですが、私は70名の名簿を一生懸命読んでですね、出欠確認します。それからこれが準備運動の様子。学校活動における悩みなんですが、授業ができないんですよ。なぜかという、国が教師たちに給料を支払わない。ストライキを起こして、授業が成り立たない。生徒が途方にくれて、私だけが授業をやっている状態で乱入して、生徒指導の先生に来てもらって追っ払ってもらって、そのうち生徒が来なくなって、授業ができない、という悩みがありました。バレーボール活動ですが、私で4代目になります。非常に、もう4代目になるので、前任者たちが育てた、選手・それから指導者の技術レベルが向上して、体育隊員のバレーボールの専門性が必要になってきました。バレーボール隊員が派遣されて、もっともっと専門技術のレベルを向上させようということで、2006年の8月にバレーボール隊員を6名派遣しました。目的はご覧の通りです。ニアメ、ドッソ、ドゴンドッチ、タウアということで、体育隊員がいる場所で授業活動をしてきました。授業活動での様子です。男性のバレー選手6名を呼んで、細かな打ち合わせをしながら、選手たちの技術向上を目指しました。それから、ニジュールのナショナルチームとの交流試合もやってきました。女子は私も出たんですけども、なんと、ナショナルチームに、日本人チーム、ボランティアチームが勝ちました。それから、私で4代目になるんですが、予算は申請してバレーボールのラインをこのように作ることができました。切れないようにミシン目を二重にしたりしてやったんですが、ラインができたなら一気に技術の向上がアップ、それから自分でジャッジができるようになってきました。バレーボール隊員と、市内の中学校のレベルを上げようということで、市内にある10校の中学校に巡回を行いました。バレーボールJOCV杯という大会を企画しました。まず、州、それから市にお願いをしに行って快く承諾してもらって、ドッソ市の体育指導主事にしつこくしつこく通って、市内の中学校の先生たちを呼んでもらったんですが、3回インシャーラーとよばれる待ちぼうけをくらって4回目にやっと打ち合わせをして、さてさて大会はできるのだろうか、と開催したところ、なんと、お偉いさんたちがしっかり来てくれました。また、チームも、あんな打ち合わせ一回でこんなに揃ってしまって、私も驚いています。打ち合わせに来なかった先生たちですが、大会になると突然やる気を出し始めまして、このように大会実施することができました。普及活動における悩み。予算がない、それからリアメの首都にはあるんですが、ない、ほとんど地方にはない、それ

から指導者不足、それからスポーツをする環境、現地人の生活環境、とくに女の子は家事仕事等をするのでなかなか運動することを理解してもらえずに、女子のスポーツ選手の低迷につながっています。それから現地人の協力、中々技術移転という部分が理解されず、また、私たち女性であること、一隊員でしかないことが軽視されています。ニジェールこれからの普及への兆しですが、やる気のある隊員、それから理解してくれる現地人が少なからずいる、それから、もっともっと色々な機関を巻き込んでやっていく。私で4代目、今5代目が行っています。これからどんどん増えていくのではないかと思います。それからボランティア経験を現場に生かすということで、実際帰ってきてから時間がなくて、理想でしかありません。日本に対する印象、ドゥソ第二中学校の生徒はこのように考えています。そこで私たち日本人に対する、非常に、期待が大きいです。今、現職参加したことで私にできること、中々時間がない中ですが、現実を伝える、そして日本の子どもたちの心の中に何かを感じてもらい、そして子どもたちが作っていくこれからの未来が何かを変えていく、日本にはその力があり、そこに住む私たちにもその力があるということを教えていきたいなあと考えています。すみません、急いでしまって。以上で終わります。